

 <h1>宗岡二小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>○よく考える子 ○やさしい子 ○たくましい子</p>	志木市立宗岡第二小学校
	令和3年度 No 10
	令和4年1月11日
	志木市上宗岡3丁目13番1号
	TEL 048 - 473 - 2305
	児童数1月11日現在 394名



厳しい冬の終わりを告げる寅年に

校長 可知 良之

2022年新しい年の幕が開けました。あらためまして、明けましておめでとうございます。今年寅年ですが、虎は決断力と英知の象徴としての意味があり縁起のよい動物なのだとか。コロナ禍を英知と決断力で乗り切っていきたい、そんな思いをいたしました。ところで、今年の干支(えと)は「寅」とよく言いますが、正しくは壬寅(みずのえとら)が正しい言い方です。壬(みずのえ)と聞いて何のことだろうと思われる方も多いのではないのでしょうか。

干支はもともと、甲(きのえ)・乙(きのと)・丙(ひのえ)・丁(ひのと)・戊(つちのえ)・己(つちのと)・庚(かのえ)・辛(かのと)・壬(みずのえ)・癸(みずのと)の十干(じっかん)と、子(ね)・丑(うし)・寅(とら)・卯(う)・辰(たつ)・巳(み)・午(うま)・未(ひつじ)・申(さる)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(い)の十二支(じゅうにし)を組み合わせたものとされています。十干の「干」と十二支の「支」で「干支」とよばれるわけです。ちなみに、去年は寅の一つ前の丑年でしたが、十干も一つ前の辛でしたので去年の干支は辛丑(かのとうし)でした。このように干支は毎年ずれて組み合わせるため60通りでき、60年で一巡りとなります。60歳を還暦と呼ぶのも、生まれてから60年たつと同じ干支になることに由来しています。ちょっと数学的ですね。

十干や十二支にも、もともと意味があったそうです。十干は、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と日を順に10日ごとのまとまりで数えるための呼び名として使われていました。この10日を一句(いちじゅん)と呼び、

3つの旬(上旬・中旬・下旬)で1ヶ月になるとして広く使われていました。今でも一月上旬といった言い方をしますね。この十干に古代中国の陰陽説(全てのは陰と陽の2つに分かれる)という考えと五行説(全てのは木・火・土・金・水の5つの要素からできている)という考えを当てはめて日本風にアレンジしたということです。一方の十二支はもともと12ヶ月を表す呼び名だったものに、人々が馴染みやすいようにと12種類の動物を当てはめたとされています。なぜ、この12種類の動物になったのか、諸説あるようですがはっきりしないようです。それでもこれだけ広く令和の時代になっても馴染んでいることを考えれば素晴らしい日本の文化遺産ではないかと思えます。私たちが日頃行っていることの一つ一つには、もともとのいわれや由来があって、きちんと意味があるのだということ時々振り返って考えてみることも必要なのではないのでしょうか。

今年の干支は壬寅(みずのえとら)、「壬」は「妊」に似ていることから陽気を下に妊(はら)む意味があり、「寅」は「蟻(ミミズ)」に通じることから春の草木が生ずるという意味があるそうです。今年、コロナ禍の厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となる、そのような1年にしていきたいと決意を新たにいたしました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

